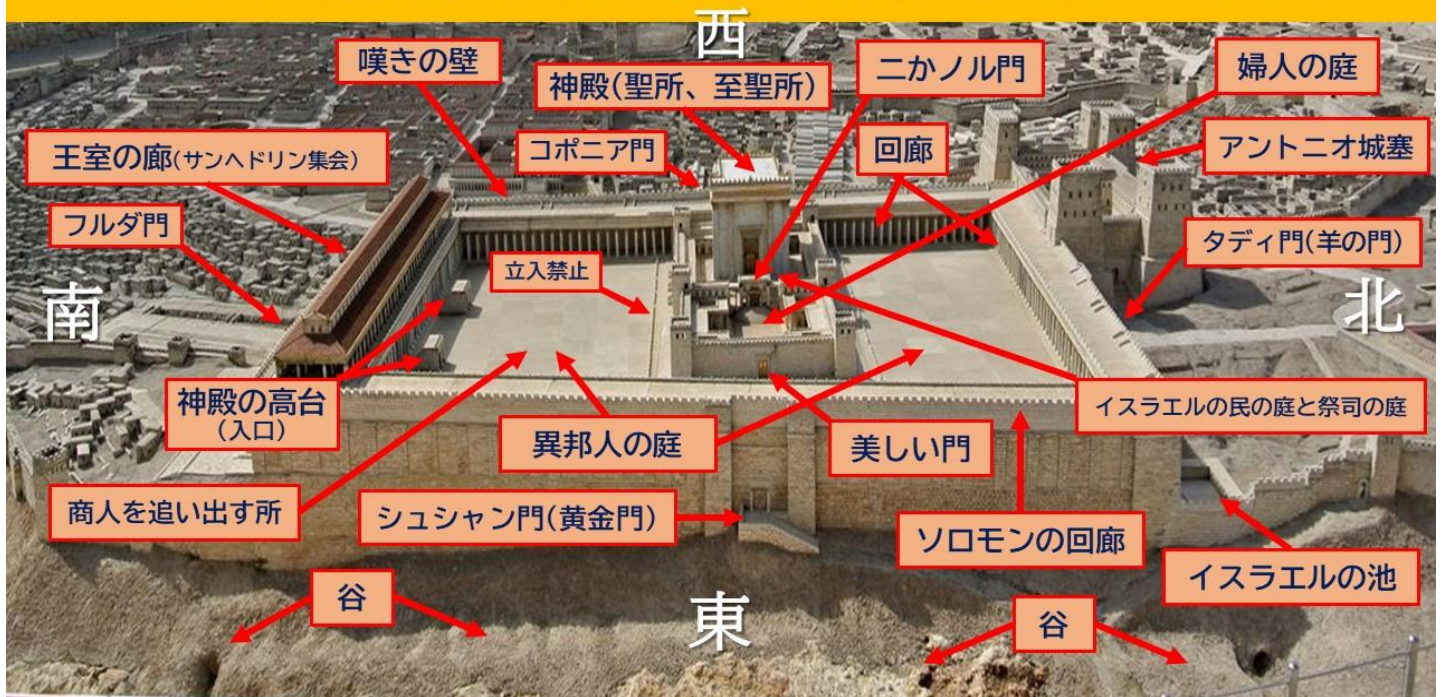


羊は気をもまない

ヨハネ10:22～30 / 李正雨師

エルサレム神殿の丘（ハーバイツ）、BC515年～BC20年～AD70年



国ごとに自分だけの文化があり、その文化によって守る祭りや祝日があります。このようなことは、その国について学んだり、そこに住んでいなければ、分からないものだと思います。今日の福音書では、イスラエルの祝日が出てきます。神殿奉献記念祭という祝日ですが、イエス様はこの祝日に神殿のソロモン回廊という場所へ行かれます。そして、今日の福音書はそこで起きた出来事を語っています。だから、神殿奉献記念祭がどんな祝日なのか、なぜイエス様がソロモンの回廊に行かれたのかが分からないと、今日の福音書を理解するのは難しいと思います。まず、神殿奉献記念祭が何の日であるのかを調べてみましょう。

旧約聖書と新約聖書の間は、約400年以上、時間的に離れています。そしてこの400年くらいの時間の間に、ユダヤでは、いろいろなことが起こりました。続けて新しい王朝が登場し、ユダを支配していた国が何度も変わりました。聖書だけを見ても、多くのことが起こったことが分かります。旧約聖書の時代にはなかった会堂やファリサイ派の人々、サドカイ派の人々などの宗派が生じて、ユダヤを治めていた領主がいたにもかかわらず、総督がユダヤに派遣されていました。神殿も美しく再建されました。このすべてのことが、旧約聖書と新約聖書の時代の間におこったことです。そして、今日の福音書22節に書かれた神殿奉献記念祭も、その時に生じた祝日です。

神殿奉献記念祭は原語でハヌカーと言います。そして、この祭りが生じたとき、イスラエルはセレウコス朝という帝国の支配を受けていました。当時のセレウコス朝の王であったアンティオコス・エピファネスは、自分が治めた全地域の宗教を一つにすることを命令します。皆が自分たちの神であるゼウスを信じろということでした。そして、すべての神殿にゼウス像を立てました。エルサレムにあるユダヤの神殿も例外ではありませんでした。ユダヤ人にギリシャの神を信じろと強いてユダヤ教のいけにえを禁止しました。ユダヤ神殿を奪って、異教徒の神たちとゼウスの祭壇を立てました。これでユダヤ人たちは怒りました。そして、約3年後、ユダヤ人たちの反乱が起こりました。火付け役は、ハスモンの家門の祭司マタティーアスの四人の息子でした。これを「マカバイ戦争」と呼びます。彼らはセレウコス朝の軍隊と対抗して戦い、勝ちました。再び奪い返したエルサレムの神殿の中にあつた異教の偶像を倒して、神様に再び神殿を奉献しました。そして、八日間の祭りを行い、勝利の喜びを分かち合いました。聖書にはこれが書かれていませんが、第2聖書と呼ばれる外典であるマカベオ上4章59節には、このように書かれています。「ユダとその兄弟たちとイスラエルの全会衆は、毎年キスレウ月25日から八日間(11月又は12月)、喜んで神殿奉献記念祭を守ることにした。」これが神殿奉献記念祭という祝祭日が生じたきっかけです。そしてイエス様は、この日、エルサレムの神殿に行かれました。

今日の福音書2節には、イエス様は神殿の境内、ソロモンの回廊という所を歩いておられたと書かれています。エルサレム神殿の丘の地図を御覧ください。エルサレム神殿の丘には、4つの回廊が、その中に東にある回廊をソロモンの回廊と呼びます。そして南にあるこの回廊を王室の廊と呼びます。当時、ソロモンの回廊には巡礼している人々が集まって話し

合ったり、トラーを講論するために集まったりしたそうです。そのため、自然にソロモンの回廊は、宗教的で信仰的な場所になり、ローマに反対していた民族主義者たちが集まっていたそうです。しかし、南にある王室の廊はそうではなかったのですが、その理由は、そこでユダヤの政治と司法を代表していたサンヘドリン会議が行われたからです。さらに、ヘロデは王室の回廊をローマの公共広場(バシリカ)の形式で建てました。これは劇場やスタジアムのようにローマを代表していたものだったので、そこには、主に親ローマの傾向の人々が集まったそうです。ですから、神殿奉獻記念祭の性格上、人々はソロモンの回廊に集まっていたはずであり、イエス様もそこに行かれたのだと思います。イエス様がソロモンの回廊に行かれると、そこに集まっていた人々は、イエス様を取り囲んで、このように尋ねます。「いつまで、わたしたちに気をもませるのか。もしメシアなら、はっきりそう言いなさい(24節)。」

彼らの質問を一度繰り返して考えてみましょう。彼らの要求は、「あなたが誰なのかを教えてください」ということです。ところが彼らの要求の前には、このような言葉が付いています。「いつまで、わたしたちに気をもませるのか。」彼らはイエス様が自分たちの気をもませていると思っています。彼らがこのように思った理由は何でしょうか。多分イエス様が政治的な動きを見せてくれなかったからだだと思います。当時のエルサレムの人々はメシアを待っていました。しかし、彼らが待っていたメシアは、今、私たちのメシアとは違いました。彼らは愛と平和を語るメシアではなく、政治的、軍事的なメシアを待ち望んでいました。まるで、マカバイ戦争で勝利したように、自分たちに勝利をもたらすメシアを待っていました。そして、彼らの前に、イエスという人物が登場します。死んだ人を生き返らせ、病気の人をいやす人。ユダヤ人たち、特にユダヤ民族主義者たちはイエス様に関心を持ち始めました。国と民族、自分たちの宗教だけに夢中になっていた彼らに、イエスという人は非常に魅力的な人物だったでしょう。セレウコス朝と戦って勝ち、神殿を再び奉獻した日を記念するためにソロモンの回廊に来た人にとっては、イエスは何よりも興味のある人だったと思います。だから、彼らはイエス様に、「もしメシアなら、はっきりそう言いなさい」と言ったのです。

しかし彼らは、イエス様から自分たちが望んでいた答えを聞けませんでした。イエス様はこのように言われます。25~26節の言葉です。「イエスは答えられた。『わたしは言ったが、あなたたちは信じない。わたしが父の名によって行う業が、わたしについて証しをしている。しかし、あなたたちは信じない。わたしの羊ではないからである。』」イエス様は、ご自分が誰なのかをユダヤ人に語られたと言われています。しかし、彼らが信じていなかったのです。今日の福音書の前の節であるヨハネによる福音書10章6~7節を見てみましょう。この箇所を読んでみると、イエス様はご自分のことをたとえ話で言われましたが、人々はその話が何のことか分からなかったということが分かります。それで、イエス様はご自分が誰なのかをはっきりと言われます。「イエスは、このたとえをファリサイ派の人々に話されたが、彼らはその話が何のことか分からなかった。イエスはまた言われた。『はっきり言うておく。わたしは羊の門である。』」

再びエルサレム神殿の丘の地図を御覧ください。北の方を見ると、城門がありますが、ここは「羊の門」と呼ばれました。元々この場所は、いけにえのために捧げ物が出入りした場所でした。人々は自分のための捧げ物と一緒に神殿に入りましたが、神殿で捧げ物を売り始めた以後、つまり神殿が腐敗した後は、この門から入ってくる人々は少なくなったそうです。しかも神殿の入り口は、いろいろな場所にあったため、間もなくこの北の入り口、羊の門は閉鎖されました。ところが、イエス様はご自分を羊の門だと言われました。これはイエス様ご自分が何をなさるかを示す言葉だったと思います。イエス様は閉鎖された羊の門を開くメシアになるのです。神殿の腐敗が進まないように、神殿が祈る場所として回復されるようになさいます。そして最終的には、ご自分がいけにえの捧げ物になり、神様と人間の崩れた関係を回復させるのです。イエス様はこれを人々に伝えられ、その過程で天の父の御名によっていろいろな奇跡を行われました。しかし、人々はイエス様が伝えられたことよりも、イエス様が起こした奇跡にもっと関心を寄せました。だから彼らは、イエス様が自分たちの気をもませたと思ったのです。イエス様を政治的なメシアとして受け入れたからでしょう。自分たちのところに来られるメシアは力強いメシア、この世で自分たちを高めてくれるメシアだと勝手に思ったからです。

皆様、私たちのメシアは、どのようなメシアですか。当時のユダヤ民族主義者たちが待っていたメシアのように、力強いメシアなののでしょうか。それとも、ローマの国教になって権勢を振ったキリスト教のメシアなののでしょうか。イエス様がこの世に来られたのは、私たちにそのような力を与えてくださるためではありません。自分の欲を持って神様に従う者は、イエス様のことを理解することはできません。ヨハネによる福音書1章5節でも「光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった」と書かれています。欲は欲以外のものを見せないようにします。それで、イエス様の教えを聞いても、イエス様の行う業を見ても、神殿のユダヤ人たちは、理解することができませんでした。むしろ、イエス様が行われた業を見た彼らは、イエス様が自分たちの気をもませていると思いました。欲という暗闇が彼らの目を隠したからです。

イエス様は今日の福音書27節でこのように言われます。「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。」羊は羊飼いの声によって、気をもみません。ただその声を喜び、その声に従うだけです。羊飼いを信頼するからです。イエス様はみんなのために、また、みんなの救いのために来られました。私たちの個人的な欲のために、この世に来られたものではありません。そして、みんなのために復活なさいました。これがイエス様が私たちに与えてくださった信仰であり、私たちに示された神様の御心です。この信仰の教えが皆様を導いてくださいますように。イエス様の復活が閉ざされている人々の心を開いてくださいますように、主の御名によって祈ります。アーメン